

2020年12月18日

## 食品分野における本県事業を契機としたタイへの進出について

バンコク事務所副所長 堀田 高広

### 1. タイでの日本食人気について

タイにおける日本食人気が健在だ。2019年時点で3,637軒（前年比約21%増）の日本食レストランが軒を連ね<sup>1</sup>、農林水産物・食品の輸出額では、香港、中国、米国などに次いでタイ市場は7位を占めている<sup>2</sup>。加えて新型コロナによる渡航制限により、タイ人の間で日本食需要は高まっており、9月にバンコクで開催された国際食品見本市「THAIFEX」では、和菓子ブースにたくさんの人だかりができていた。JETROバンコク事務所が2017年に実施した「日本食品消費動向調査 タイ」によると、日本食を好きな理由として「味の良さ」（37.1%）、「健康に配慮」（26.0%）、「洗練されている・高級感」（12.6%）が上位を占め、日本料理と食材は、ポジティブなイメージでタイに着実に受け入れられている。

### 2. 本県企業の進出事例について

本県は、タイ工業省と連携し、2010年から両国・地域の中小企業経営者同士の交流促進のため「アジア中小企業経営者交流プログラム（タイ）」を実施し、2015年には、経済交流のさらなる連携強化を目指して、中小企業交流支援に関する覚書をタイ工業省と締結している。

同事業を契機として五洋食品産業（株）（糸島市）は、2014年にSrifabakery Co., Ltd. とタイ国内での同社製品の販売提携契約を結び、輸出販売を開始した。しかし、五洋食品の日本工場で生産した製品は、タイで生産するよりも製造原価が割高で、タイの消費者が求める価格で商品を提供できず、輸出は一旦停止となった。だが、五洋食品の製品に可能性を感じたSrifaの要望で、レシピ・仕様書に基づく製品の共同試作を1年間継続し、本年7月からSrifa工場でチーズケーキの現地生産を開始した（写真1）。当該商品は現在、タイのセブン・イレブン全店で販売され売上好調である。Srifaの責任者であるPeerawat氏に取材したところ、量産化までには、原材料の調達、



（写真1）ベイクド・チーズケーキ

<sup>1</sup>JETRO「2019年度タイ国日本食レストラン店舗数調査」

<sup>2</sup>農林水産省「2019年農林水産物・食品の輸出実績（国・地域別）」

品質の均一化、生産能力向上など、様々な課題に直面したが、五洋食品とビジョンを共有し、リモートで打合せを重ね、二人三脚で課題を解決してきたとのこと。また、五洋食品のロゴマーク「GO!YO!」と「日本国旗」に加え、「美味しい」と日本語でパッケージに表示する理由について、「日本語を記載することで、タイ人に対して品質の良さを訴求できる」とも教えていただいた。Srifaは五洋食品の生産ノウハウを吸収でき、五洋食品は収益の一部を対価として受け取るとともに、独自に販路開拓したタイ以外の国々でも Srifa が製造する同製品を販売する権利を有するなど、両者はWIN-WINの関係を構築している。

また、液体ゆずこしょう「YUZUSCO」を国内で販売する(株)高橋商店(柳川市)は、タイにおけるゆずの認知度がまだ高くなかった2010年からTHAIFEXに出展し、販路開拓に取り組んできた。価格競争力を高めるため2013年から現地生産を開始するなど、現地での生産管理を担当するパートナー企業であるTOKYO SIAM BROTHER Co.,Ltd.と連携し、事業展開において直面する課題に対して方策を打ち出すことにより、タイにおける市場開拓を着実に進めている<sup>4</sup>。TOKYO SIAM BROTHER Co.,Ltd.の岩切社長曰く「海外展開も国内展開と本質的に変わる点はなく、一過性のもので終わらせないためには、長期的なビジョンを持って継続的に取り組むことが必要である」とのこと。

このように、本県の事業を契機として、本県企業は販売提携や製造業務委託など、様々な形態によりタイに進出している。

### **3. 今後の方策について**

当事務所が、THAIFEXに参加したタイの食品企業約40社を対象に、日本企業に求める事項に関してアンケートを実施したところ、約3割のタイ企業が、日本企業の食品製造技術に高い関心を示していることが分かった。また、11月にJETROバンコク事務所とタイ工業省が主催した「Thailand-Japan Collaboration Food Processing Industry Seminar」において、タイ食品加工業者協会のウィシット会長は、缶詰(パイナップル、ツナやスイートコーン)生産の加工機械分野における日タイの連携開発に言及しており、食品製造業者だけでなく、タイ企業の求める食品加工技術を有する食品機械製造業者にもタイ進出の可能性が広がっていると感じる。

本年度は、新型コロナウイルスの影響によりビジネス訪問団の派遣に代わり、食品分野でのオンライン商談会を2021年2月末頃に実施予定である。タイの食品市場に関心のある県内企業には、参加については是非ご検討いただきたい。

---

<sup>4</sup> (株)高橋商店は、2015年から柚子の普及の幅を広げることを目的として、柚子の原料(柚子の皮や果汁)も輸出する「YUZU PREMIUM JAPAN」を展開している。